

J. H. 2023年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

私は大学生生活を通して、実習やゼミ、学内活動をとおして地方創生について深く学んできました。猪倉実習では、地域の農家の方々と一緒に畑を耕し、作付けや収穫、販売までの一連の流れを経験しました。単に農作業を行うだけでなく、天候や人手不足、価格の変動など、農業が抱える課題を当事者の声から学べたことは大きな気づきでした。また、芋焼酎プロジェクトでは、耕作放棄地を活用してサツマイモを育て、その芋を原料に芋焼酎へと加工する取り組みに参加しました。地域に眠る土地や資源を活かし、付加価値のある商品へとつなげていく過程を経験したことで、農業をツールに地方創生を実現していく可能性を実感しました。同時に、住民の方々と対話を重ねながらシビックプライドの向上を目指す活動を行い、「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」意識の大切さも学びました。

内田ゼミでは、フットパスの取り組みとして宮崎県都城市のマップ作成に携わり、地域を歩きながら、暮らしの中にある小さな魅力をどのように伝えるかを考えました。また、keepleの活動では、放置自転車をどのように減らせるかという視点から調査や提案を行い、日常の「暮らしやすさ」に直結するまちづくりについて学びました。さらに、421ラボの太平連に所属し、小倉が長崎への原爆の第一投下目標であったという歴史的事実を基に、北九州市内の学校で平和学習を行いました。生徒の皆さんとともに戦争と平和について考える活動を通して、過去の出来事を次世代につなぐ責任を実感しました。これらの経験は、現在のキャリア選択にもつながっており、地域に寄り添いながら社会に貢献したいという思いの土台となっています。



内田ゼミのフットパス活動で、宮崎県都城市の住民から町の魅力を聞きながら地域を歩いている様子

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

卒業後はECサイトの運営・ふるさと納税の運営代行を主に行う会社に入社し、2年間は商品開発部に所属してまいりました。チーズインハンバーグやおからクッキー、干し芋などの開発に携わり、企画立案から試作、マーケティング、パッケージの作成までを一貫して担当しました。また、ふるさと納税の返礼品開発では、自治体で発生する規格外の野菜や果物を活用し、加工品として付加価値を高める取り組みも行いました。特産品の少ない自治体でも返礼品を開発できるよう工夫することで、農家の収入向上や地域課題の解決につながる点にやりがいを感じておりました。

3年目は、ふるさと納税の運営代行業務に携わり、現在は熊本県内2自治体を担当しております。自治体担当者や地域の事業者と打ち合わせを重ね、新規返礼品の企画・開発やページ改修を通じて寄附額の最大化を目指しています。商品企画で培った視点を活かしながら、地域の魅力を引き出し、自治体と寄附者双方にとって価値のある仕組みづくりに取り組んでおります。これらの経験を通して、食品を通じて人と地域をつなぐことに大きな意義を感じるようになりました。今後も現場の声を大切にしながら、より多くの方に地域の魅力や生産者の想いが届く仕組みづくりに貢献していきたいと考えております。



現在担当している自治体のシテイプロモーション用に撮影した全国名水百景に選ばれた「池山水源」の様子

現役生へのメッセージ

私は大学で学んだことを活かしたく、地方創生事業に携われる企業を選びました。就職活動中は不安もありましたが、「自分が学んできたことを社会でどう生かしたいか」を軸に企業を選んだことで、今はやりがいを持って仕事に取り組んでいます。就職先に悩んでいる方も多いと思いますが、ぜひ大学での学びや興味を大切に、自分らしく働ける環境を探してみてください。

(2025年11月26日執筆)